

石川県下の帰化植物について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-09-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木村, 久吉 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00067027

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



11. *Rubus sieboldii* Bl. no. 79 ホウロクイチゴ **タカタウダイ科** (Euphorbiaceae) 12. *Acalypha australis* Linn. No. 86 エノキグサ 13. *Glochidion obovatum* Linn. No. 55 カンコノキ **ユヅリハ科** (Daphniphyllaceae) 14. *Daphniphyllum glaucescens* Bl. No. 77 ヒメユヅリハ **ツゲ科** (Buxaceae) 15. *Buxus japonica* Muell-Arg. No. 84 ツゲ **シヤウベンノキ科** (Staphyleaceae) 16. *Turpinia ternata* Nak. No. 94 シヤウベンノキ **ブドウ科** (Vitaceae) 17. *Vitis kiusiana* Momiyama? No. 82 クマガハブドウ **コバンモチ科** (Elaeocarpaceae) 18. *Elaeocarpus ellipticus* Nak. No. 58 ホルトノキ **ツバキ科** (Camelliaceae) 19. *Eurys japonica* Thunberg. No. 64 ヒサカキ **ウコギ科** (Araliaceae) 20. *Fatsia japonica* Deen. et Pl. No. 78 ヤツデ 21. *Gilibertia trifida* Mak. No. 71 カクレミノ **セリ科** (Apiaceae) 22. *Cryptotaenia japonica* Hassk. No. 87 ミツバ **ツツジ科** (Ericaceae) 23. *Rhododendron tamurai* Masamune No. 83 マルバサツキ 24. *R. seabrum* G. Don. var. *rwsonii* Nak. No. 70 ケラマツツジ **マンリヤウ科** (Myricinaceae) 25. *Maesa formosana* Mez. No. 74 タイワンイヅセンリヤウ **クマツヅラ科** (Verbenaceae) 26. *Buddelia vernifera* (Mak.) Masamune No. 63 ウラジロフチウツギ **アカネ科** (Rubiaceae) 27. *Gardenia jasminoides* Ellis No. 67 クチトシ 28. *Tarenna kotoensis* Kan. et Sasak. var. *gyokushinkwa* Masam. No. 80 ギョクシンクワ **フウテヤウサウ科** (Caprifoliaceae) 29. *Ebulus chinensis* Nak. No. 75 ソクヅ **キク科** (Compositae) 30. *Artemisia vulgaris* Linn. No. 81 ヨモギ 31. *Erigeron linifolius* Wild. No. 25 アレチノギク 32. *Siegesbeckia orientalis* Linn. No. 85 ツクシメナモミ **禾本科** (Poaceae) 33. *Digitaria sanguinalis* var. *ciliaris* Doell. No. 89, 62. メヒジハ 34. *Pogonatherum crinitum* Tr. No. 57 イタチガヤ 35. *Setaria lutescens* Hubb. No. 90 キンエノコロ **ツユクサ科** (Commelinaceae) 36. *Commeliana bengalense* C. B. Cl. マルバツエクサ **サルトリイバラ科** (Smilacaceae) 37. *Smilax iriomotensis* Masamune No. 72 トゲナシカカラ **ヤマノイモ科** (Dioscoreaceae) 38. *Dioscorea bulbata* Linn. No. 76 ヤマガシユウ

石川県下の帰化植物について

木村久吉

石川県天然紀念物調査報告第六輯(昭5)に「県下暖帯林地帯ニ生ズル植物」として植物目録が掲げられてあるが、その内帰化植物は次のものが載せられている。

アレチノギク、サンシチサウ、ヒメジヨロン、ヒメムカシヨモギ、ノヂシヤ、ヘラオホバコ、タチイヌノフグリ、テウセンアサガホ、オランダハクカ、オホマツヨヒグサ、マツヨヒグサ、イチビ(逸出)チヤ(逸出)モクゲンジ(逸出?種子漂着?)ウルシ(逸出)アブラギリ(栽培?)チヤンチン、ニワウルシ、アカツメクサ、ウマゴヤシ、シロツメクサレンゲサウ、ツルマンネングサ(逸出)ミセバヤ(逸出?)オホツメクサ(逸出)ヤウシユヤマゴバウ、アリタサウ(アカザ科)ソバカヅラ、ヒメスイバ、ヒメグルミ(逸出)ニ

ワゼキシヨウ、オホアハガヘリ、カモガヤ、コバンムギ、ドクムギ、ナガハグサ、ナギナ
タガヤ、ヒメコバンサウ、ホソムギ、ヤリクサヨシ

寡聞にしてより以前の記録を知らないが、最近眼についた若干について書いてみたいと
思う。

少くとも私の子供時代の印象にはオランダミミナグサ、シロツメグサ、オホマツヨヒグ
サ、オランダハクカ、オホイヌノフグリがはつきりしている。それに比すれば金沢附近で
アオビユ、ホナガビユ、イヌビユ、アカザ、ヨウシユヤマゴボウ、ヒメムカシヨモギ、ア
レチノギク、オホアレチノギク（恐らくはヒメムカシヨモギとアレチノギクとの雑種）オ
ニノゲシ、アメリカセンダングサ、オホオナモミ等は余程後年に覚えている。オランダハ
クカは県下には平地の到る所に見られるが、東京附近では分布は少く、私が採集したのは
返子葉山間のとあるどぶで昭和23年に採つたぐらいである。本県には寧ろ乾いた道路わき
校庭等に多い様である。

オホイヌノフグリは牧野富太郎先生が牛込のどこかで明治20年頃始めて採集されたと何
かで読んだことがある。今は全国到る所に拡まつたものの一つだ。

理学部構内にはセイヨウタンポポ、ムラサキカタバミのあることが東大構内及その附近
に似て面白いが、ドクムギの夥しい繁殖は、更に驚かされる。他には野町の教育学部附近、
宝達駅附近、更には海岸砂丘が陸方に終焉する附近には一帯にかなり分布している様であ
る。城内にはヨウシユヤマゴボウ、ヒメスイバ、シロツメクサ、アカツメクサ、コウマゴ
ヤシ、マメゲンバイナヅナ、ヒロハギシギシ、コニシキサウ、オホイヌノフグリ、タチイ
ヌノフグリ、ヘラオホバコ、セイヨウタンポポ、ノボロギク、オニノゲシ、アヒノゲシ、
ノゲシ、ヒメムカシヨモギ、ヒメジヨオン、オホアレチノギク、オホオナモミ、コバンサ
ウ、ヒメコバンサウ、ナギナタガヤ、カモガヤ等がみられる。コバンサウは海岸砂丘に自
生のハマヒルガホ、シロバナスミレ、ハタガヤ等と共に戦時中運ばれた砂に種が混つて来
たものであらう。

コバンサウは海岸附近の砂地に多いが、殊にハリエンジュの下草として多く、場所によ
つては殆ど純群落をなし、全国にも珍らしい風景であらう。ヒメコバンサウはコバンサウ
とは群落を共にすることはなくづつと陸地に入るが、更に水田の畔道などにも多く、分布
範囲はより広い様である。城内にもあるが、宝達駅附近、美川町郊外等数ヶ所で採集して
いる。マンテマはかなり広く海岸砂丘地に野生化しているが、時代的には新しく、初めに
挙げた文献に載っていない所を見ると、その後に繁殖したものと思はれる。

牧草としての帰化植物の意味もあちこちに肯かれる。上野練兵場跡、尾山城跡等にアカ
ツメクサ、コウマゴヤシ、カモガヤの多いことがこれを示す。七尾高等学校農業部敷地及
びその附近にはハルガヤ、カモガヤ、オホアワガエリ、ナガハグサ、アカツメクサ、コウ
マゴヤシを見ている。

イヌヂシヤは鶴来手取川土堤、犀川上菊橋附近でみている。ウマゴヤシは石川郡額附近
で採集した。オホニシキサウは東京郊外にかなり普通にみかけるが、当地では少い様であ
る。湯涌は白雲庵の庭で見ている（昭和25）。ピロウドモウズイカは粘滑薬として用いら
れた薬草であつたから、恐らく四高校庭か、医大附属薬専に始め植えられたものであら
う。ここから逸脱したと思はれるものを東金沢駅附近の工場敷地で見ている（昭和25）。
原産地の中欧と同様、野性化する可能性はあらう。

ヒメジョオンは初めに挙げた文献にも載っているが、目立つ程に急激に拡がり出したのはつい昭和15年頃からだろうか。昭和10年頃清水幸忠氏が岐阜は長柄川土堤に咲き乱れているこの植物に見て、美しいが雑草化すると考えて持つて帰らなかつたと語つて居られた。氏は石川郡から能登地方への拡がりの方向に注目して居られる。

ヒロハギシギは現在最も強い勢を示しているものの一つであろう。数年間放置された所、市内外の道路わきには必ず大きな牛蒡根を持つて群落を誇つている。

東京附近では現今ヒメスイバ、ヒロハギシギシ、アレチノギシギシ、ケアリタサウ、イヌアリタサウ、ブタクサ、ハキダメギク、クソニンジン、ヒメジョオン、ハルジョオン、ヒメオドリコサウ、イヌムギ、ナギナタガヤ、オホクサキビ、ネズミノオ等が非常に勢よく拡がりつつある。少くともその内、ハルジョオン、ヒメオドリコサウ、ハキダメギク等は東大構内か小石川植物園から拡がった様な気がする。クソニジンは金沢市磯部で一株見られた(昭和26)。オホクサキビは北陸街道は三馬附近、城内及び県庁裏通りでみられた(昭25)。東京では私は昭和20年に小石川植物園附近で始めて採集したが、以後世田谷ではハルジョオン、ブタクサ、ハキダメギク、イヌアリタサウ等と共に猛烈な勢で拡がっていくのを見た。戦後に於ける進駐軍の動きと関係あるものと云はれているから、本県に於けるのも同様の意味があるのであろう。アメリカで枯草熱とかに八釜しいブタクサも、西金沢駅附近で最近見付けた(昭25)。ダンドボロギクは最近東京郊外、三浦半島では随分厚顔しく拡がっている。私がまだ大学にいた頃(昭和20)「宮城にとられたものだそうだ。聞いて来てほしいとおほせだから」と落合教授が持つて来たのを見たら、やはりこれだつた。本県でも最近かなり拡がって居り山奥までどんどん進んでいる様である。中宮温泉への道、湯涌より高尾山への道、宝達山は頂上迄みられる。

以上雑草的なもののみについて述べたが、私自身昭和25年金沢に帰つてからの採集、見聞が多く、時間的にも地域的にも語る資格に欠けている。本県に入つた年代について何方か詳しく見て居られないだろうか。海岸砂丘のハリエンジュは何時頃植えられたものであろう。シンジュ、チヤンチンなど維新前からあつたのだろうか。ポプラ「コクヨウ」は何時頃入つたものであろうか等々、木本にも知りたい数々がある。

帰化植物ではないが、ヌメリグサが最近河北郡から石川郡の方に向い、湿田を盛に南下している模様である。

より学術的な詳細な研究への一助になるならば駄筆の甲斐はあろう。

追加：薬用のアメリカアリタサウが城内に雑草化し始めてしまつたが之は昭和25年城内薬草園に植えたものである。ハルジョオンは野々市の自宅(昭23)及び城内薬草園(昭26)に植えたものである。美しい花だから勘弁してほしい。

オランダゼリは金沢市諸江付近にかなり繁殖している。戦時中「代用セリ」と称して一時売られたそうである。ダンドボクログクは正しくはタンドボロギクの由、里見氏から注意された。正宗先生、里見氏等にいつも遠慮なく教えて戴いていることを常々心から感謝しています。

参考文献：久内清孝：帰化植物(昭25) 石川県：石川県天然記念物調査報告 第6輯(昭5) 寺下友三郎：金沢大学尾山城跡植物目録(昭和25) 里見信生：タンドボロギクとその分布(本誌 Vol.1 No.1(昭27) 木村久吉：帰化植物に見て(石川県薬剤師協会々報10号)(昭25)